

「九州新幹線・久留米駅についてのアンケート」の主な結果概要

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科

2017年度社会調査実習「九州新幹線調査」グループ

担当教員 田代英美

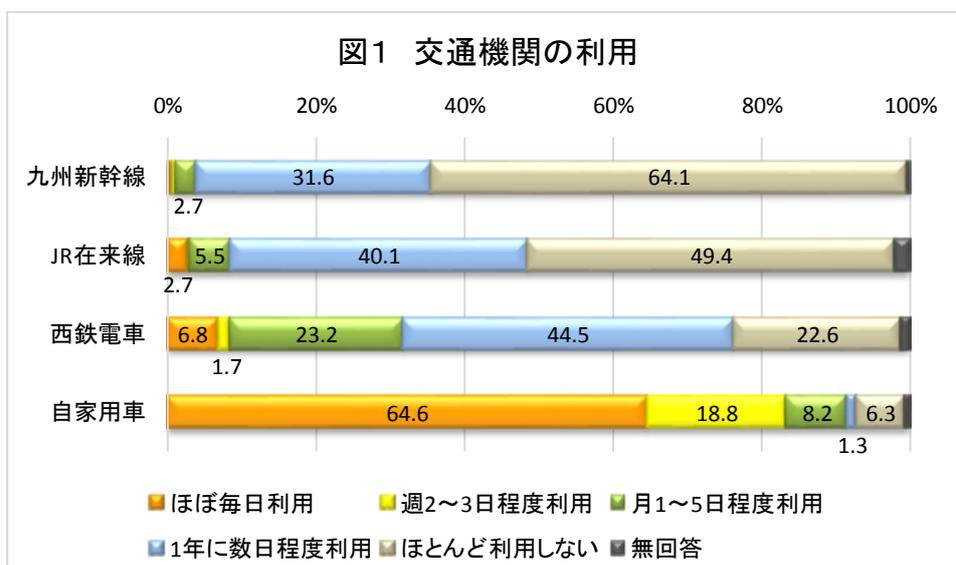
学生調査グループ一同

【回答者のプロフィール】

- ・久留米市の旧久留米市域にお住いの18歳～79歳の方から無作為で（くじ引きのような方法で）1500人の方を選び、アンケートを郵送させていただきました。回答を返送してくださった方は474人でした（有効回収率32.0%）。
- ・性別では、男性と女性でほぼ同数でした。
- ・年代別では、18歳～30歳代20.9%、40歳代・50歳代34.0%、60歳代・70歳代44.3%で、60歳以上の比率が半数近くと高くなっています。
- ・久留米市での居住年数が「50年以上」は29.1%、「30年以上」は59.7%で（50年以上を含む）、長期にわたり住んでいる人が多いことがわかります。住むことになった理由では（11の選択肢からいくつでも選択）、「もともと住んでいた」（52.3%）が最も多く、さらに「自分や家族の職場がある」（25.2%）、「配偶者の出身地」（18.3%）、「通勤に便利」（12.3%）の3項目が比較的高くなっています。
- ・職業を持っている人は全体の62.9%、学生は3.2%でした。就業者・学生の通勤・通学先は久留米市内が64.2%で、そのほか、福岡市や久留米市以外の筑後地域、佐賀県が10%前後となっています。通勤通学の地域が久留米市の周辺にも広がっていることがわかります。

【九州新幹線、JR在来線、西鉄電車、自家用車の利用】

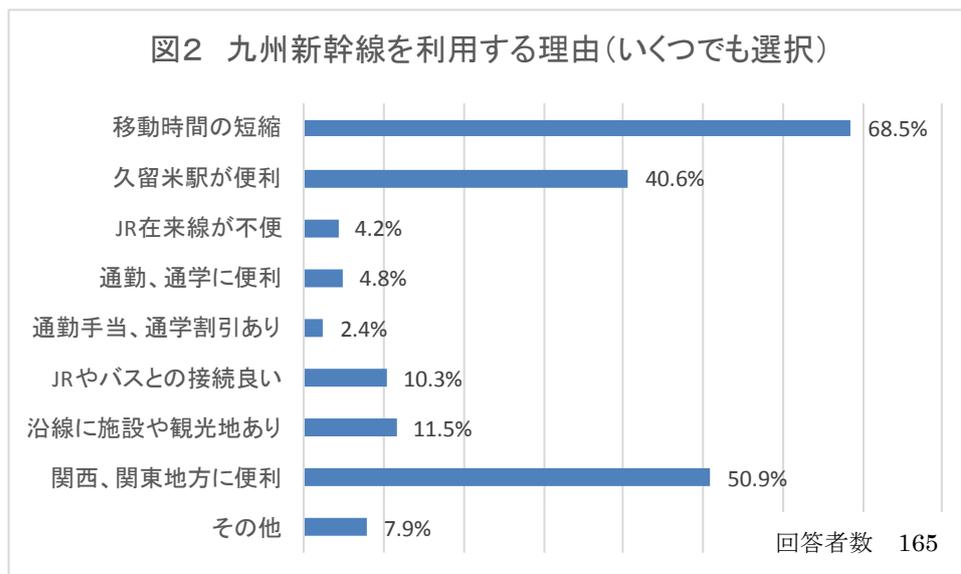
自家用車（家族の運転を含む）は、「ほぼ毎日利用」が64.6%、「週に2～3日程度利用」は18.8%で、8割の人は日常的に利用しています（図1）。



九州新幹線は「ほとんど利用しない」が 64.1%とかなり高い比率です。利用する人も「1年に数日程度利用」がほとんどです。また、JR 在来線は「ほとんど利用しない」が 49.4%、「1年に数日程度利用」が 40.1%で、九州新幹線よりも利用頻度がやや高いと言えます。西鉄電車は「1年に数日程度利用」が 44.5%、「月に1～5日程度利用」が 23.2%です。九州新幹線や JR 在来線よりも利用する人がかなり多くなっています（図1）。

九州新幹線を利用する人に利用する理由を尋ねると（9項目の中から当てはまるものをいくつでも選択）、「移動時間が短縮できるから」、「関西、関東方面に行くのにも便利だから」、「久留米駅が便利だから」の3項目の比率が約4割～7割と高くなっています（図2）。九州新幹線の利用者にとっては、移動時間短縮や大阪・東京方面への直通、久留米駅の便利さの効果が大きいと言えます。

九州新幹線を利用する際の主な降車駅・目的地では、「博多駅」が 67.7%と最も多く、「関西地方」（43.7%）が続いています。「鹿児島中央駅」は 17.4%、「熊本駅」は 11.4%でした。久留米駅から南の方向よりも福岡市や関西方面に向かうケースが多いことがわかります。

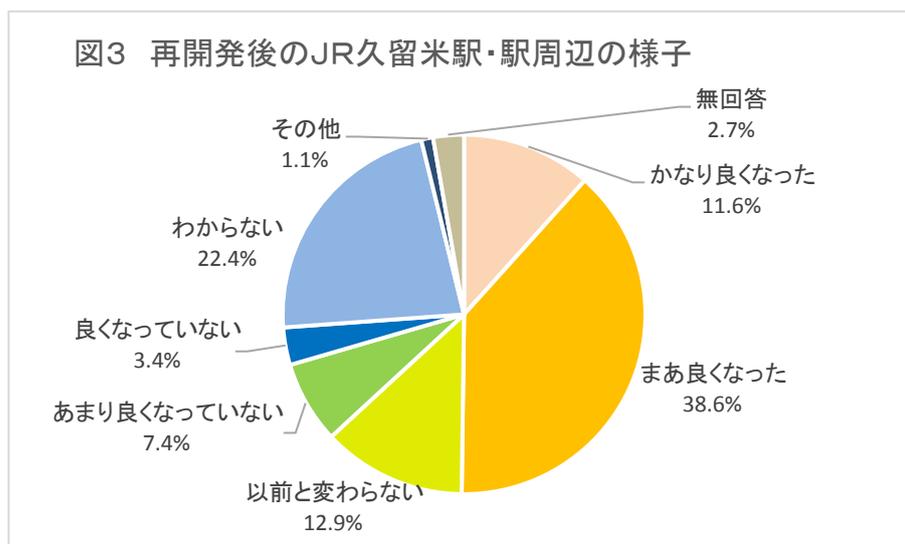


なお、九州新幹線を利用しない理由としては、「新幹線沿線に出かける目的（観光、買い物、レジャー等）がない」（45.2%）や「自家用車の方が便利」（42.5%）と並んで、「JR在来線や西鉄電車ですら十分」の比率（37.8%）が高くなっています。

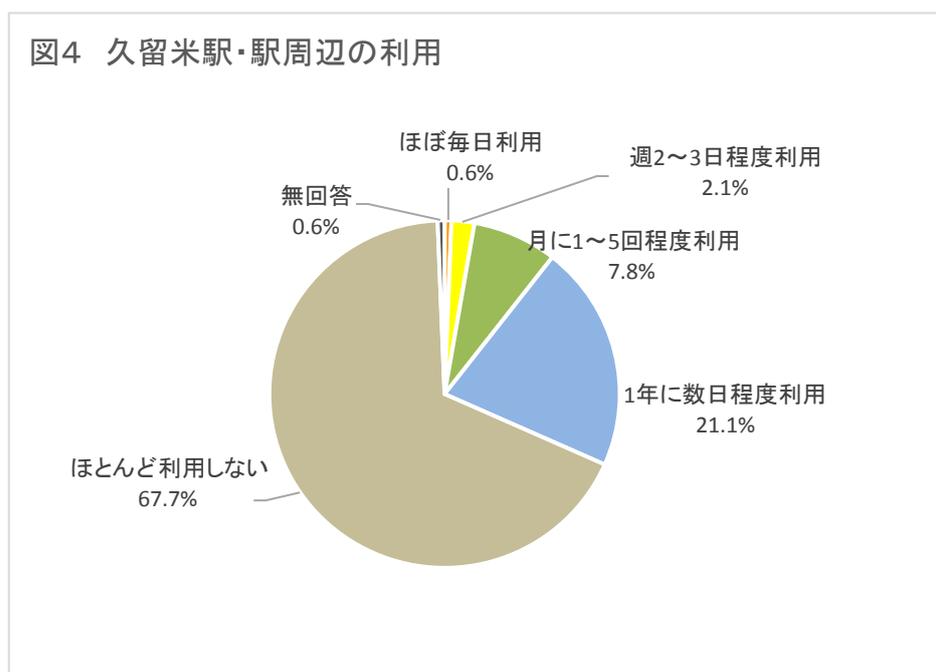
以上のことから、久留米市では九州新幹線の利用はそれほど進んでいないこと、その背景として自家用車が日常的な交通手段となっていることや西鉄電車・JR 在来線が便利であることが考えられます。

【九州新幹線開業後の JR 久留米駅周辺や久留米市全体の様子】

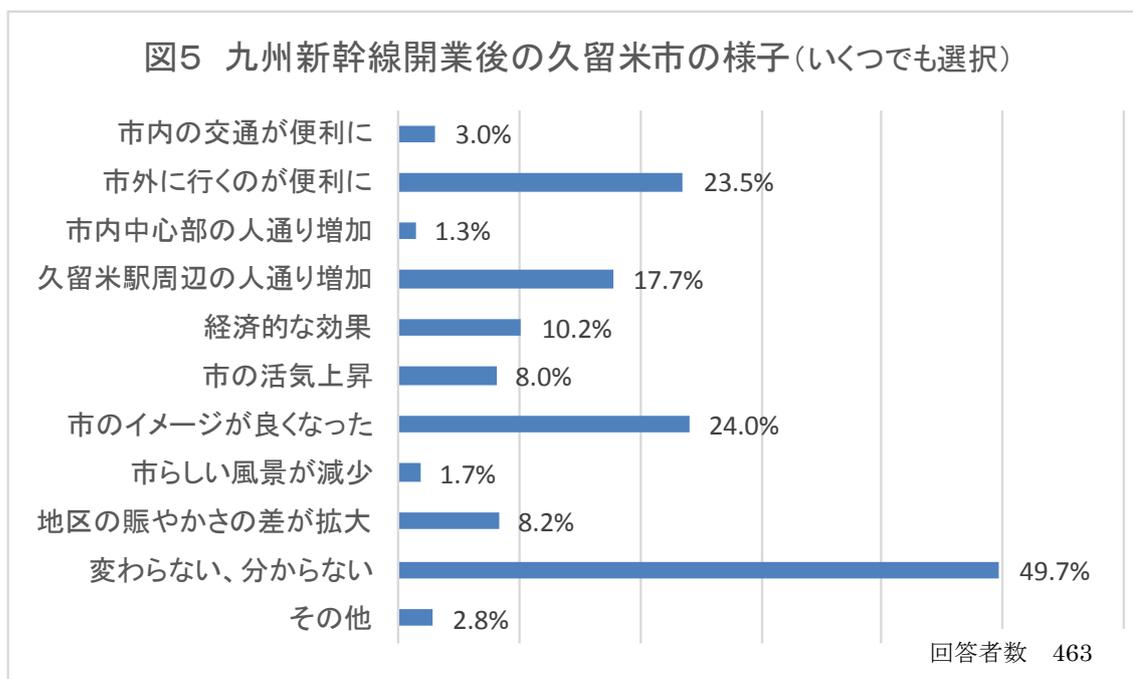
九州新幹線開業を機に行われた JR 久留米駅・駅周辺の再開発後の様子については、「かなり良くなった」11.6%、「まあ良くなった」38.6%で、回答者の半数が良いと評価しています。一方で、「わからない」が22.4%、「以前と変わらない」が12.9%と比較的高い比率です（図3）。



また、鉄道利用以外のショッピング等での久留米駅・駅周辺の利用は「ほとんど利用しない」が67.7%、「1年に数日程度利用」が21.1%です。JR久留米駅・駅周辺は再開発が行われたにもかかわらず、利用はあまり進んでいない状況です（図4）。



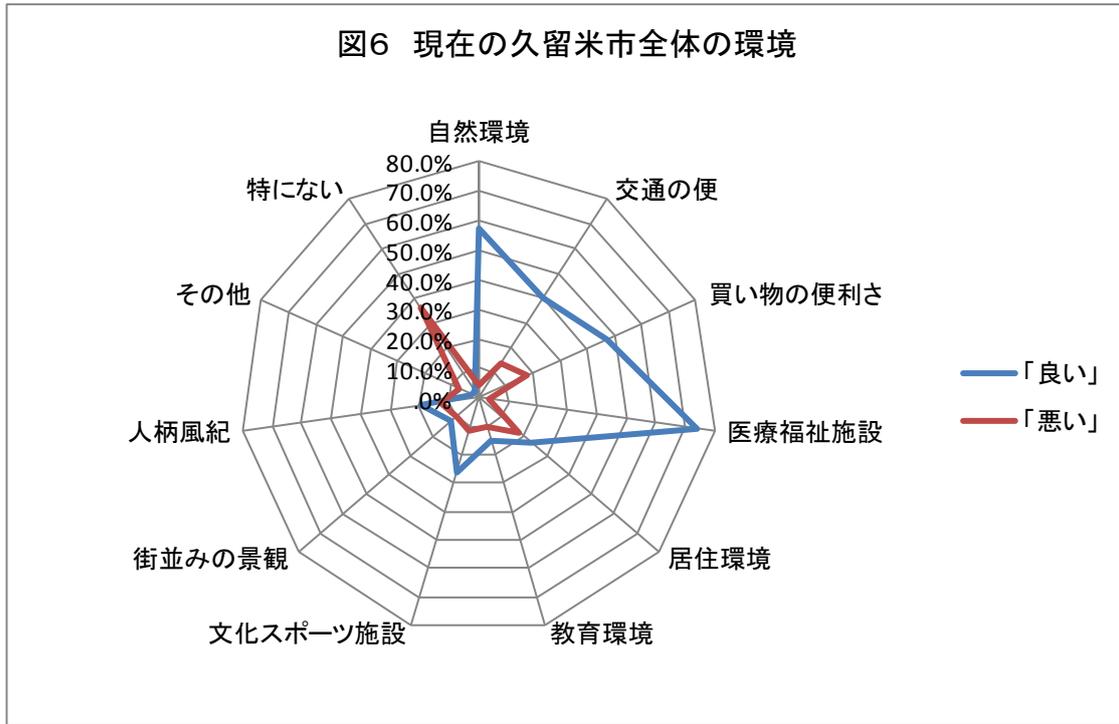
九州新幹線開業後の久留米市の様子については（11項目からいくつでも選択）、「以前と変わらない、わからない」が49.7%と非常に多いことが注目されます。「以前と変わらない、わからない」以外では、「市外に行くのが便利になった」や「久留米市のイメージが良くなった」、「久留米駅周辺の人通りが多くなった」が20%前後の比率でした（図5）。



【久留米市全体の生活環境、住みやすさ】

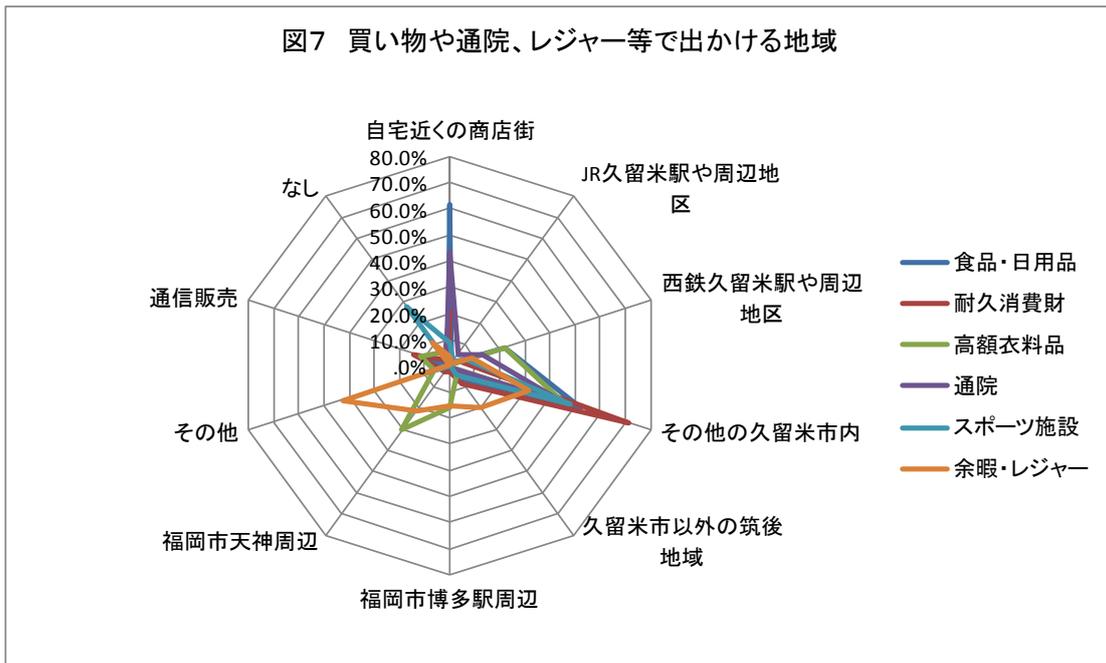
今回のアンケートでは、交通機関の利用とともに久留米市全体の環境についても伺いました（図6）。「良い」の比率が目立って高いのは「医療福祉施設」（73.7%）です。続いて、「自然環境」（57.0%）、「買い物の便利さ」（47.2%）、「通勤・通学などの交通の便」（40.5%）が挙げられています。他方、「悪い」項目は「特にない」が36.2%で、回答者の1/3は現在の久留米市の環境に特に問題を感じていないと言えます。「悪い」比率が「良い」比率を上回った項目はありませんが、「道路・上下水道・公園などの居住環境」や「買い物の便利さ」などの6項目は「悪い」が10%台となっており、旧久留米市域内でも地区によって違いがあるのではないかと思います。

図6 現在の久留米市全体の環境

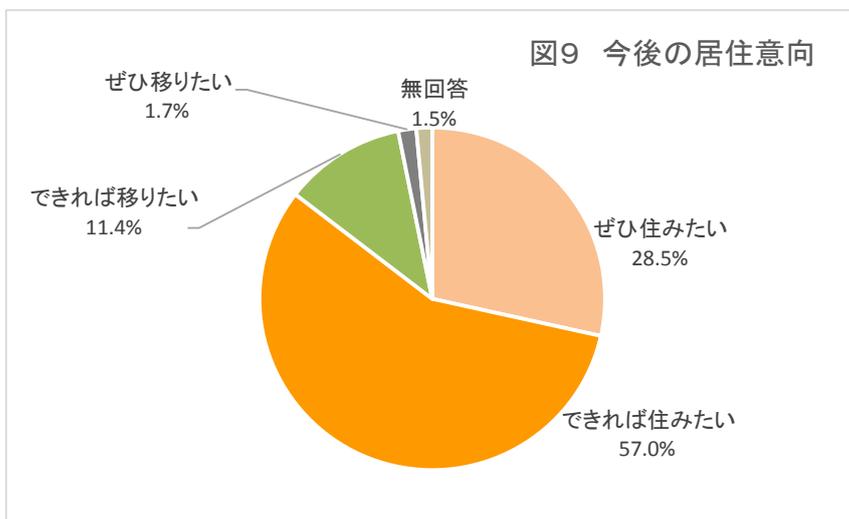
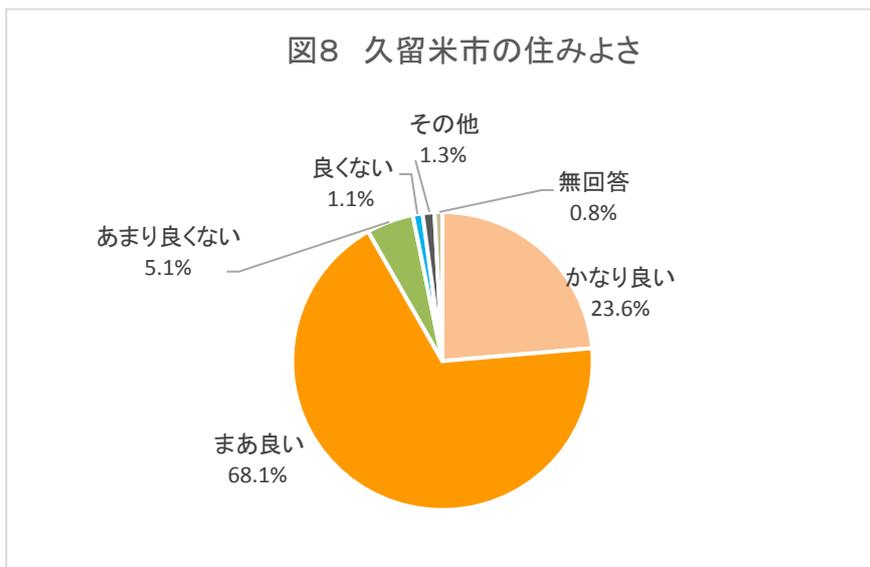


買い物や通院、レジャーなどの際に出かける地域についても伺いました (図7)。食品・日用品や家具・家電などの耐久消費財、通院、スポーツ施設の利用はほぼ久留米市内で行われていることがわかります。ただ、JR 久留米駅・周辺地区はすべての項目でかなり小さい比率です。高額衣料品の買い物や余暇・レジャーは久留米市だけでなく、福岡市やその他の地域の比率が高くなっています。

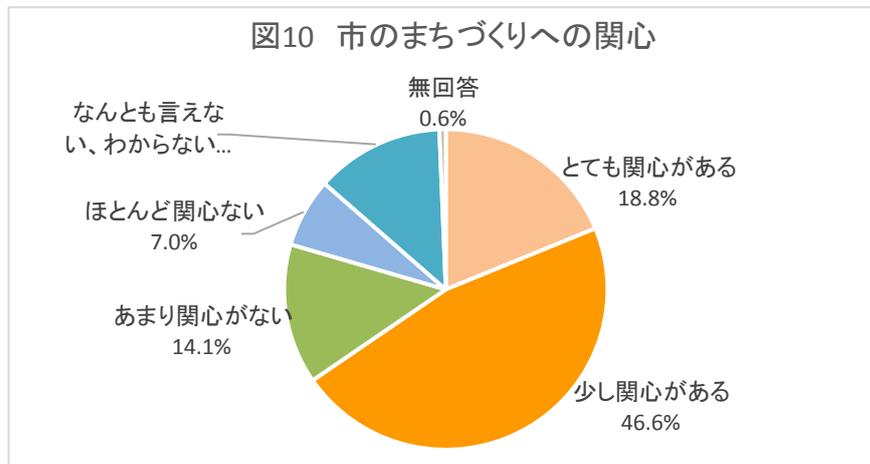
図7 買い物や通院、レジャー等に出かける地域



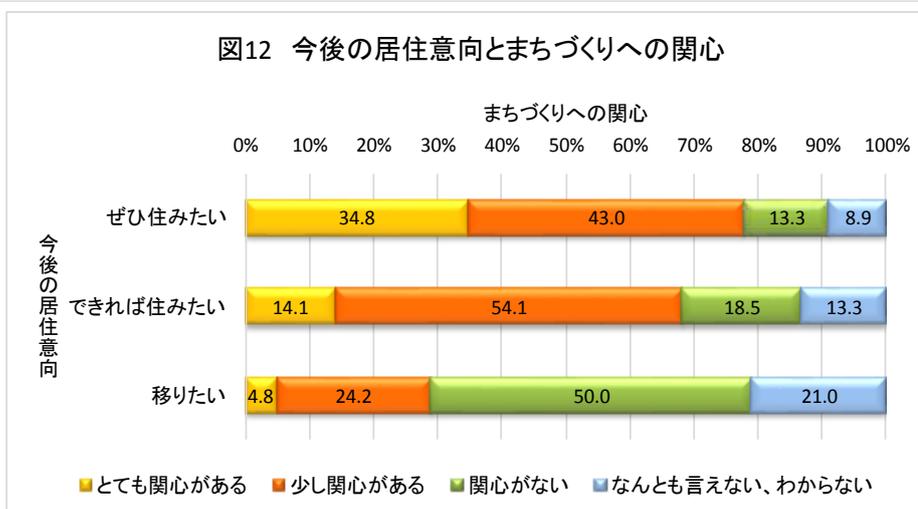
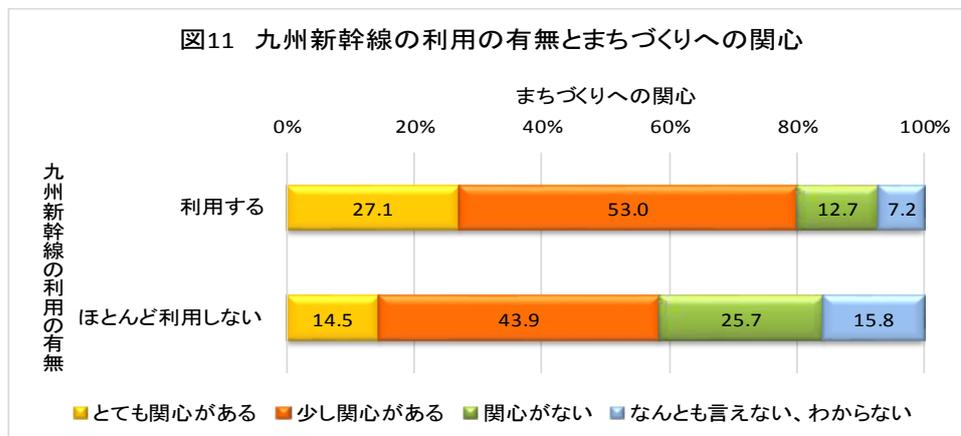
現在の久留米市全体としての住みよさは「かなり良い」が23.6%、「まあ良い」が68.1%、合わせて「良い」が9割とかなり高い評価です（図8）。また、今後も現在の居住地域に「ぜひ住みたい」が28.5%、「できれば住みたい」が57.0%、合わせて「住みたい」が9割近い数値でした（図9）。旧久留米市域に住んでいる人にとって、久留米市は全体として住みやすく、居留意向も高いことがわかります。



久留米市のまちづくりに対しては「関心がある」が全体の2/3、「関心がない」と「なんとも言えない、わからない」が合わせて1/3でした（図10）。



まちづくりへの関心と他の項目とのクロス集計（無回答を除く）の結果では、性別や年齢別では関連がみられませんが、九州新幹線の利用頻度や今後の居留意向とは関連していることがわかりました。九州新幹線を利用している人の方で（図11）、また、居留意向を持っている人の方で（図12）、まちづくりに関心があるという回答の比率が高い傾向があります。



【まとめ】

現在の久留米市は、2005年2月に1市4町が合併して、人口約30万人の市になりました。九州新幹線の路線からかなり遠い地域も含まれています。今回は九州新幹線が沿線地域にどのような影響をもたらしているのかをテーマにしていますので、九州新幹線が通る旧久留米市域にお住まいの方々にアンケートをお願いしました。この結果概要は、久留米市全体の状況ではなく旧久留米市域の状況を反映したものと言えます。

久留米市全体の環境に対する評価は全体として高く、特に「医療福祉施設」を挙げた人は73.7%にのびります。「自然環境」、「買い物の便利さ」、「通勤・通学などの交通の便」も「良い」が4割から6割近くの割合でした。交通の利便性は、旧久留米市域に住んでいる人の半数近くが良いと感じています。

日常的に利用される交通手段は、久留米市においても自家用車です。他方、九州新幹線は「ほとんど利用しない」が64.1%と、かなり高い比率でした。利用する人も「1年に数日程度」がほとんどです。西鉄電車は毎日利用する人は少ないものの、「ほとんど利用しない」は22.6%で、九州新幹線と比べると利用者が多いことがわかります。

九州新幹線を利用する人の利用する理由は、「移動時間が短縮できるから」、「関西、関東方面に行くのにも便利だから」、「久留米駅が便利だから」の3項目が約4割～7割と高くなっています。一方、九州新幹線を利用しない人の利用しない理由では、「新幹線沿線に出かける目的（観光、買い物、レジャー等）がない」、「自家用車の方が便利」、「JR 在来線や西鉄電車でも十分」などが挙げられています。このことから、九州新幹線は、利用者にとっては移動時間の短縮や大阪・東京まで直通というプラス面があると言えます。同時に、久留米市では自家用車だけでなく西鉄電車やJR 在来線の利便性が高く、日常的に利用する交通手段としては九州新幹線の必要性はあまり高くないと推測されます。

九州新幹線開業を機に行われたJR 久留米駅・駅周辺の再開発後の様子については、回答者の約半数が良いと評価しています。しかし、鉄道以外のショッピング等でJR 久留米駅・駅周辺を利用するかどうかを尋ねると、「ほとんど利用しない」が67.7%でした。九州新幹線開業後の久留米市全体の様子についても、「以前と変わらない、わからない」が49.7%でした。「以前と変わらない、わからない」以外では、「市外に行くのが便利になった」、「久留米市のイメージが良くなった」、「JR 久留米駅周辺の人通りが多くなった」が20%前後の比率でした。

買い物などで出かける地域については、食品・日用品や耐久消費財の買い物、通院、スポーツ施設の利用はほぼ久留米市内で行われていることがわかりました。他方、高額衣料品の買い物は久留米市内とともに福岡市天神周辺の比率が高く、余暇・レジャーは福岡市やその他の地域の比率が高くなっています。ただ、JR 久留米駅・周辺地区はすべての項目でかなり小さい比率にとどまっています。

今回の結果で印象的だったのは、久留米市の住みよさの評価も今後の居住意向も非常に高かったことです。市のまちづくりに関しても「関心がある」が約6割でした。まちづくりへの関心は、九州新幹線を利用している人や居住意向を持っている人の方で高い傾向がみられます。久留米市の現状では九州新幹線の利用はあまり多くはありませんが、九州新幹線を交通利便性や居住環境の向上にどのようにつなげるのかは、やはり大きな課題であると言えます。